

シニア



これまでのエキストラ出演を振り返る鎌田充さん(湖西市)

49歳で大河ドラマの撮影に参加したのを機に映画やドラマ、CMなどのエキストラを務め、昨年12月に計500作品の出演を達成した。74歳。仕事と趣味の両立を考えていた時、偶然テレビで募集を

はりきり人生

映画などのエキストラ

鎌田 充さん (湖西市)

知り参加したのが始まり。撮影の誘致を担う県内外のフィルムコミッションに登録し、予定が合う作品には積極的に参加してきた。雑兵や警官、ソニー。撮影が年間30作品を超えた年もある。役者を見て、自分なりに演技の在り方も研究した。「撮影したシーンが必ず使われるとは限らない。与えられた役をきちんと演じると監督が見ていてくれる」と手応えを語る。

撮影現場では有名俳優たちの姿も間近に見た。「皆、監督や多数のスタッフと一緒にいい作品を作ろうと懸命。下端でもその仲間に入れてもらえるのが楽しい」。湖西歌舞伎や市民劇団にも参加中。75歳を「高貴高齢者」と称し、さらなる活躍を目指す。

(湖西支局・杉崎素子)

介護付き有料老人ホームの主な特徴

介護	施設スタッフが対応
費用	比較的高コスト
要介護度	入居時自立、要介護1以上などさまざま
認知症対応	対応するところが多い
看取り対応	対応するところが多い
介護・看護職員	要介護者3名に対して介護職員・看護職員が1名以上

(太田差恵子さんへの取材に基づく)

「毎朝、スタッフが『Fさん、おはようございます』とトイレ介助をして、食堂に連れていってくれます。穏やかな毎日ですよ」とのこと。長女は自宅にいたときと同じように、月に1回会いに



4

資金計画 ゆとりを持って

「九州で暮らすFさん(80代)は妻が病気で亡くなって以来1人暮らしでした。足腰が衰え、要介護認定は要介護2。関西で暮らす長女から「一緒に暮らしなう」と言われますが、「この年になって九州を離れるつもりはない。同居などしたら気を使うし娘にも迷惑をかける」と、地元介護付き有料老人ホームに入居しました。

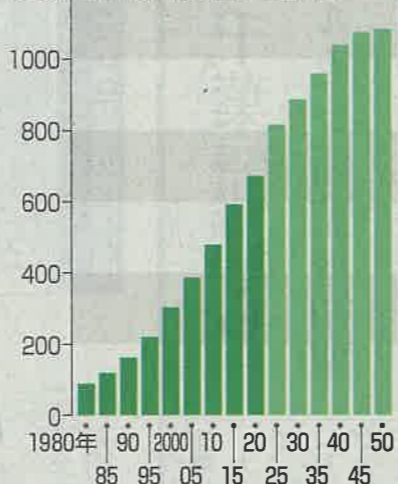
雑兵や警官役 500作に出演

知り参加したのが始まり。撮影の誘致を担う県内外のフィルムコミッションに登録し、予定が合う作品には積極的に参加してきた。雑兵や警官、ソニー。撮影が年間30作品を超えた年もある。役者を見て、自分なりに演技の在り方も研究した。「撮影したシーンが必ず使われるとは限らない。与えられた役をきちんと演じると監督が見ていてくれる」と手応えを語る。

孤独死 対策は

早期発見の仕掛けづくりを

1人暮らしの高齢者数の推移
※国勢調査や国立社会保障・人口問題研究所による。20年まで万人、25年以降は万世帯で推計値



大阪府内のマンションの一室。住人の高齢男性の遺体が昨年10月ごろ見つかった。この部屋で昨夏亡くなったとみられ、倒れていた場所には黒い染みが残り、異臭が漂う。「臭いや虫が出て『おかし』と思っても、付き合っていないから周りの住民は関わりたくない。半年ぐらい見つけ

顔を合わす機会増やして

暮らしの人の数を公表。昨年1月から半年間で3万7227人(暫定値)が亡くなり、このうち65歳以上の高齢者が2万8330人で76.1%を占めた。「1人で住んでいる以上、孤独死は防げない」と工藤さん。そこで必要になるのは、早期発見の仕掛けづくりだという。「照明や電気ポットの

引っつかればいい。点が線になり、面になれば、その地域で安心して暮らせるようになる」と話した。

2025年、団塊の世代が全員75歳以上になり、日本は大きな節目を迎えている。超高齢社会の課題を見つめる。△月1回掲載します▽

鍋ごと冷やさないで

カレーなど 食中毒に注意

農林水産省が昨年、X(旧ツイッター)に「『2日目おいしい』と言われるカレーですが(中略)鍋ごと冷やさないでね!」と書き込んだ。ウェルシュ菌による食中毒が発生するリスクが高くなるため、カレーに限らず煮込み料理全般で注意して



(イラスト・おかのきんや)

回復するが、高齢者はまれに重症化

超 高齢社会 2025



「社会的孤立をいかに防ぐかが大事」と新井康友教授

いる場合は室内に残された食品の賞味期限などで死亡時期を推測しているという。特殊清掃の仕事のピークは2月と9月。物価高で光熱費を節約したり、高齢で体温調節がうまくできなかつたりして亡くなり、遺体が見つかる時期だ。10年前と比べ件数は2倍以上に増えた。警察庁は昨年8月、全国の警察が取り扱った遺体のうち、自宅で死亡していた1人

使用で安否確認できるサービスがある。家族や地域で見守りが難しい場合は(民間の)見守り訪問サービスもお勧めです。」

むろん地域の支えも大切だ。高齢者の社会的孤立を研究する仏教大の新井康友教授は、問題解決の「特効薬」はなく、行政を含め、あの手この手で対面での接触頻度を増やすことが重要だと指摘する。



県健康生きがいづくりアドバイザー協議会(健生しずおか)は2月に実施するイベントの参加者を募集している。

▽ニースポーツ「ディスプレイ」体験教室(21日午後1時半。藤枝市民体育館(JR藤枝駅北口、徒歩5分)。室内運動靴を持参。定員20人。

暮らしに関わる情報や疑問、